

東奥日報 2006年10月6日(金曜日)

<派閥>

自民党津島派の321日 ▶ 6 ◀

元民主党代表代行 藤井裕久氏に聞く

かすむ「大将」の影響力

— 参院選で初当選後、田中派に入りましたが。

「田中角栄さんは今太閤と言われるように、非常に人を引きつけるパーソナリティを持っていた。そりゃ人間なので損得を考える人もいたが、何よりもあの人間性にほれてしまう。国会議員になってから、私の母親が亡くなった。田中さんは総理大臣を辞めて裁判中の時だったが、お寺に朝から来て、親せきと一緒に火鉢に当たって話をしている。元の総理大臣がだよ。あの人らしい。これだから、自然に人が集まってくる」

— 田中元首相は派閥について、どのように考えていたか。

「中選挙区のうち五人区があれば五派閥ができる。自民党で仲間を戦わせるわけだから当たり前。自民党が五人区で五人の候補を出せば、別々の派閥に属していなければ戦えない。これが田中さんの持論だった」

人事に絶対的強み

— 選挙資金と人事の面ではどうだったか。

「もち代、氷代はあったが、どの派閥もやっている。選挙資金については、当時私は当選回数が少なかったのもらえた方だった。昔はほとんど派閥からもらって、党からはお涙程度。今とは全然逆だ。人事は絶対強かった。最大派閥だからポストを枠で取ってしまう。その代わり、派閥均衡人事になっていたのも事実」

— 小泉純一郎首相の登場で派閥は一変した。

「と言うか形骸(けいがい)化している。選挙区で一人の候補を立てる小選挙区制の導入が大きい。小泉さんは小選挙区制をフルに利用した。去年の衆院選を見ると分かる。郵政民営化に反対した人は公認しなかった。田中さんとは全然違うが、パーソナリティーがあった。小選挙区制に適した人物だった」

— カネも党が握った。

「カネは党に政党交付金で来る。党でカネを扱うのは幹事長なので、その権限は絶大なものになる。私も自由党と民主党で幹事長をやっていたので分かる。逆の立場から言えば、幹事長には逆らえないということになる」

世論に迎合するな

— 今回の総裁選を見て感じたことは。

「やはり派閥が弱くなった。かつて田中派は中曽根康弘さんをよく思っていなかったが、田中さんの意向で中曽根さんを総裁に担いだ。中には心の中で抵抗した人もいたが、みんな言うことを聞いた。昔は派閥の大將が『これだ』と言えばみんながやる。今は大將が『これだ』とも言えないし、大將の言うことをみんなが聞かなくなった」

— なぜですか。

「背景はカネと人事。政治資金規正法の強化で派閥のトップはカネを集められなくなった。人事は昔なら派閥が推薦していたが、小泉さんは派閥の推薦を無視して自分で決めた。これは功績かもしれないが……。派閥の大將の言うことを聞かなくなるのは当たり前」

— 今回、多くの派閥は安倍晋三氏支持へと雪崩を打った。

「いいこととは思っていない。単純に世論に乗ることは怖いことがある。世論を無視するのではなく、迎合してはいけない。今回は議員たちの迎合に見える」

— 民主党内にもグループがあるが。

「絶対に派閥にしてはいけない。考え方の違いを言うのはいいが、内々で足を引っ張るなど言っている。政策の勉強会ならいいが、それを超えたら許さないと。きっと小沢一郎代表もそう言うと思う」